2011年度　景観・デザイン委員会　第2回親委員会

議　事　要　旨

日時：2011年12月3日（土）　12:30～13:30
会場：日本大学理工学部駿河台キャンパス1号館 2階 会議室
出席者（敬称略）：
＜委員＞天野委員長、宮脇委員、北村委員、平野委員、福井委員、関委員、山下委員、上島委員
＜委員兼幹事＞佐々木幹事長、水谷幹事、伊地知幹事、沖田幹事、大波幹事、山口幹事、上田幹事（連絡担当）

議題：
1　H22活動評価結果
2　H24事業計画
3　小委員会等活動報告
　・デザイン賞
　・デザイン賞10周年フォトコンテスト
　・防災・復興
　・論文集D1
4　親委員会主催の活動
5　デザイン賞の学会移行について
6　規約の一部変更について
7　今後の親委員会活動と予算使用について
8　その他

資料：
・議事次第
・資料１　平成22年度景観・デザイン委員会の活動度評価結果
・資料２　平成24年度事業計画など
・資料３　土木学会デザイン賞2011選考結果
・資料４　風景をつくる土木デザインフォトコンテスト開催結果
・資料５　東北地方太平洋沖地震によって被災した河川・海岸構造物の復旧の景観検討に際してのお願い
・資料６　ワークショップの開催概要
・資料７　景観・デザイン委員会デザイン賞の土木学会賞移行に関する審議について（案）
・資料８　景観・デザイン委員会規則の変更点

議事：

１　H22 活動評価結果

・資料に基づき、佐々木幹事長から概要が報告された。

・委員会の活動を支えるために、評価項目Ⅲに資する活動が必要である。

（上田幹事）委員会活動度の評価項目Ⅲのコメントで、活動が委員会としての成果なのか、委員個人の成果なのかを判別しづらいと指摘されている。委員会として主体的に関わることが必要である。また、国際的な活動が少ないことが指摘されている。

（天野委員長）海外から専門家を呼んで講演会などを開催する時には、景観・デザイン委員会との共催にしてもらうなどの配慮をいただきたい。

２　H24 事業計画

・資料に基づき、佐々木幹事長から概要が報告された。

（上田幹事）平成 24 年度の親委員会の予算は 78 万 5 千円であり、今後拡充金が追加される可能性がある。

３　小委員会等活動報告

【デザイン賞】

・資料に基づき、佐々木幹事長から選考結果が報告された。

・デザイン賞授賞式を平成 24 年 2 月 6 日午後に開催することが決まった。

【デザイン賞 10 周年フォトコンテスト】

・資料に基づき、福井委員から開催結果が報告された。

・受賞者に贈る表彰状は、一部に誤記があったため、刷り直しているところである。

・今後は、受賞作品の活用方法として、学会誌やパンフレットに使うなどの方策を考えていく。

【防災・復興】

・資料に基づき、佐々木幹事長から概要が報告された。

・景観・デザイン委員会が正式な文書を学会の外に出すときは、文書の内容について理事会の承認が必要なので、注意が必要である。

【論文集Ｄ１】

・資料に基づき、平野委員から概要が報告された。

（平野委員）土木学会論文集に移行してから、投稿数が少なくて困っている。締切が設けられていないことが原因ではないか。

（山下委員）今のところ投稿は 13 本で、そのうち登載は２本だけである。今年は No.2 の論文集発行は見送り、来年の論文集に載せることになった。委員の皆さんには、論文投稿の呼びかけを行ってもらいたい。また、投稿された論文は調査・研究のカテゴリーに属するものしかなく、デザイン作品などに関する論文の投稿がない。

（佐々木幹事長）仮想の締切が必要か。

（関委員）仮想の締切は設けた方が良い。

（北村委員）締切の設定は、査読の期間が障害になって出来ないのではないか。
（佐々木幹事長）査読の期間よりも、むしろ修正期間が長くとられている印象がある。
（山下委員）以前に比べて、報告やノートなど、簡単な内容でも投稿できるようになっているので、皆さんにも是非投稿してもらいたい。査読期間はできるだけ短くなるように努力している。
（佐々木幹事長）論文投稿を呼びかけるようなキャンペーンをしたい。
（佐々木幹事長）論文集に関連して、土木学会論文賞の推薦方法について意見を伺いたい。前回は景観・デザイン委員会とＤ１編集小委員会で同じ論文を推薦したが、他の部門では別々の論文を推薦していた。そこで、次回からＤ１はＤ１の対象論文から推薦することにして、この委員会からは、Ｄ１対象論文以外の論文を推薦するのはどうか。なお、Ｄ１編集小委員会とこの委員会の両方から推薦することに意味はない。
（北村委員）Ｄ１対象論文から２つの論文を選び、別々の推薦論文として出すことは可能か。
（佐々木幹事長）出すことはできるが、事前調整をするようなことは好ましくない。

４　親委員会主催の活動

・資料に基づき、佐々木幹事長からワークショップの開催概要が報告された。
・土木学会からの依頼で講師などを呼べることがあるので、積極的に委員会を活用すること。

５　デザイン賞の学会移行について

（佐々木幹事長）現在、デザイン賞は当委員会で運営しており、賞状なども委員長名で出している。それを土木学会が運営する賞に移行するのかどうか。移行するメリットとしては、デザイン賞が有名になり、箔が付く。そのことにより、プロポーザルにおいてデザイン賞受賞者が適正に評価されるようになるのが望ましい。デメリットとしては、理事会や表彰委員会などの土木学会のスケジュールに沿って運営を進めることになることが挙げられる。尚、現在の審査委員の構成や審査基準などの審査方法は変えずに運営できる見込みである。
（北村委員）審査方法の維持は、移行するうえでの重要な課題である。デザイン賞を運営するうえで困っているのは金銭面である。選考料が高いため応募数が少ない。また、現地調査するための旅費が必要である。土木学会賞に移行して金銭面の問題が解消されるのであれば良い。また、デザイン賞に箔がつくのもメリットである。ただし、審査の過程で、選考委員会の選考結果に対して、理事会などで反対される可能性がある。
（平野委員）最終決定が表彰委員会と理事会になると、内部調整などがあるのではないか。受賞作品の質を保てない恐れがある。
（天野委員長）田中賞選考委員会での選考結果が、表彰委員会と理事会で覆されるのは見たことがない。選考委員会がきちんと選考すれば問題無いのではないか。デザイン賞の選考料や現地調査費が制限される可能性は無いとは言えない。その点については交渉が必要である。
（平野委員）デザイン賞の運営費は景観・デザイン委員会で用意すれば良いのではないか。
（天野委員長）土木学会賞への移行で金銭面のメリットはない。現在のデザイン賞は賞牌の売り上げで運営費を賄っているが、継続できなくなる恐れがある。
（平野委員）田中賞は金銭面で円滑に運営している。
（天野委員長）田中賞は賞牌レプリカの売り上げで運営費を賄っているので、運営費を確保する方法については表彰委員会ときちんと話す必要がある。審査方法の継続は可能だと思う。また、

選考委員の人事権も土木学会になるので、この委員会では承認できなくなる。
（平野委員）Ｄ１編集小委員会は、景観・デザイン委員会と異なる系統の組織に属しているが、委員会規則で連携している。デザイン賞の運営もそのようにすれば良いのではないか。
（天野委員長）選考のスケジュールは前倒しになるので、問題無いのではないか。
（佐々木幹事長）土木学会賞に移行した場合に起こりうることを整理したい。
（天野委員長）土木学会賞に移行しても、受賞者による公開プレゼンテーションを開催できるのかを確認する必要がある。平成 22 年度の景観・デザイン委員会の活動度評価結果のうち、評価項目Ⅱはデザイン賞による収入が大きく影響している。去年度の結果はＡだが、土木学会賞に移行すると恐らくＢになる。総合評価がＢになると委員会予算が削られるので、できれば総合評価Ａを維持したい。
（平野委員）これまで評価項目ⅢはＡだったのではないか。
（上田幹事）評価項目Ⅲでは、デザイン賞に関係する内容が評価されている。
（平野委員）とすれば、移行しない方が良い、という考えもある。
（佐々木幹事長）デザイン賞の幹事と相談して、評価についてシミュレーションしたい。
（平野委員）デザイン賞は近年応募数が少なく、応募の呼びかけで幹事が苦労していると聞く。隔年開催でも良いのではないか。
（山口幹事）デザイン賞の幹事の中でもそのような議論をしている。

６　規約の一部変更について

・資料に基づき、佐々木幹事長から変更点について報告された。

７　今後の親委員会活動と予算使用について

（上田幹事）委員会活動に関する支出は申請してもらいたい。
（福井委員）フォトコンテストの経費は今から落ちる予定である。
（山口幹事）賞牌の見積もりは確保していない。赤字になった場合は補填する必要がある。
（佐々木幹事長）多少予算に余裕があるので、アイデアがあれば親委員会行事として積極的に企画いただきたい。

８　その他

（水谷幹事）景観・デザイン研究発表会の運営スタッフは、参加費を払う必要があるのかを確認したい。スタッフの中には、研究発表会の準備と巡回のため、講演をほとんど聞けない方もいる。方針を明確にしてもらいたい。
（佐々木幹事長）上島委員の判断に委ねたい。以前、非土木学会員の司会・コメンテーターについては、払わなくても良いと決めた。
（平野委員）収支に問題がないのであれば、スタッフは払わなくても良いのではないか。
（水谷幹事）学会員は研究発表会に協力すべき立場だが、非学会員でも協力してもらっている方がいる。それらの方々は払わなくて良いとするのはどうか。
（上島委員）以前は、全員に払って頂くことが原則だったことから、 基本的にはそのようにしたい。今後は、委員にご就任頂く際に、委員会活動への参加は、労力がかかることを納得していただくことを前提としたい。

以　上